

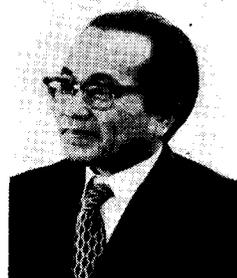
新名誉会員の紹介

森口繁一氏

大正5年9月11日生

現住所 東京都杉並区松庵2丁目16番10号

本籍地 香川県小豆郡内海町苗羽甲1077番地3



森口繁一氏は、1957年1月の学会設立実行委員として学会の設立準備にあたられたのをはじめとし、学会設立後は、理事8年、副会長7年、会長2年を歴任され、その間刊行物委員長、研究普及委員長、IAOR委員長、表彰委員、評議員等をしばしば兼任し、学会の基礎づくりから現在の社団法人に至るまで、積極的に学会のために貢献されました。最近では、社団法人化、国際会議の開催、機関誌オペレーションズ・リサーチの発行等、内外ともに多大なる貢献をされました。

理事会は同氏の功績をたたえ、名誉会員に推薦することをきめ、去る4月25日の総会にはかかったところ、満場一致で可決されました。ここにそのご報告をかね、同氏に対して心から感謝の意を表したいと思ひます。

略歴

昭和13年3月 東京帝国大学工学部航空学科卒業
昭和13年4月 東京帝国大学工学部講師
昭和19年12月 東京帝国大学工学部助教授
昭和29年11月 工学博士の学位取得
昭和31年3月 東京大学工学部教授
昭和52年4月 電気通信大学情報数理工学科教授

現在に至る

昭和25年～27年 アメリカ、ノースカロライナ大学数理統計学科へ留学

昭和35年～36年 アメリカ、コロンビア大学およびスタンフォード大学客員教授

著書

チャーチマン：オペレーションズ・リサーチ入門(監訳)
他多数

OR学会関係

評議員 昭和32年～現在まで
理事 昭和32, 33, 38, 39年
常務理事 昭和42～45年(刊行物委員長)
副会長 昭和35, 36, 42, 43, 44, 45, 46年
会長 昭和49, 50年
編集委員 昭和34年～45年
研究普及委員長 昭和46年
表彰委員 昭和42年～現在まで
IAOR委員長 昭和34～46年
IFORS 日本代表 昭和46～48年

3賞(OR学会文献・実施・普及各賞)の選考経過

表彰委員会

1. 文献賞

例年どおり、学会機関誌を中心に会員からの推薦を募集、それを含め国内外の関連学術誌に掲載された日本人の論文の中から選考を行なった。最終段階まで検討の対象となった論文は5件6編(内3編はJORSJ、1編は国内学術誌、2編は外国雑誌に掲載されたもの)であり、分野としては待ち行列、保全、数理計画法の各分野にわたっていた。

いずれも、理論的にはかなりの水準に達しているものと評価され、いちじるしい独創性を示すものやすぐれた数値的結果を与えるものもあった。しかし、現実問題の把握、またはそれとの対応づけの面での弱点が、ある程度共通に指摘された。このような検討結果にもとづき、文献賞として適格なものは見当らず、本年度は文献賞の授与は見送るのが適当であるとの結論に達した。

以上の結論とともに、実証・応用・事例等で6編の

新フェローの紹介

フェロー会議より理事会へつぎの2名の方が新フェローとして推薦され、4月11日の理事会で承認されましたのでご紹介します。

唐津 一 (からつ はじめ) 氏

大正8年1月9日生
現住所 東京都大田区田園調布5
—22—2

学歴

昭和17年 東大工学部電気工学科
卒業

職歴

昭和23年 日本電信電話公社電気通信研究所研究員工務
局兼務検査課詰
昭和30年 西畑特別研究室研究主任
昭和33年 " 室長補佐
昭和34年 技師長室調査役
昭和36年 松下通信工業(株)企画部長
昭和46年 " 取締役

主著

経営と情報、企業をのばす数学、企業をのばす品質管理
販売の科学、新製品開発の技術、システム工学

OR学会役員

理事 昭和43, 44年

副会長 昭和49, 50年

評議員 昭和40~46年, 51年より現在まで。



松富武雄 (まつとみ たけお) 氏

明治42年9月17日生
現住所 広島県佐伯郡五日市町屋
代233—12

学歴

昭和15年 通信官吏練習所無線技
術科卒業

職歴

昭和12年 下関電信試験係勤務
昭和19年 下関通信講習所講師兼務
昭和20年 下関電信試験係長
昭和24年 下関電気通信管理所電信機械課長
昭和25年 下関電気通信所施設長
昭和28年 日本電信電話公社山口電気通信部保全課長
昭和31年 " 中国電気通信局経営調査室



OR担当調査員

昭和38年 " OR担当調査役

昭和37年 広島大学工学部経営工学科(非常勤)講師

昭和42年 近畿大学工学部経営工学科教授

OR学会役員

理事 昭和41, 42, 44, 45, 47, 48年

評議員 昭和41~46年, 現在中国四国支部評議員

昭和42年 万国OR会議に日本代表として参加

中に入るものがなかった点についても、若い会員諸氏の今後の発奮が期待される。

2. 実施賞

第2回実施賞は、東亜燃料株式会社に授与された。

同社は戦後早い時期から線形計画法を積極的に利用しており、日本におけるORの先駆的存在である。同社の社内教育も有名で、定期的な教育コースも5種を数え、受講者総数850名、全対象者の約45%に達している。研究成果の発表もかなり活発で、IFORS国際会議にも発表しているし、国内の研究発表会でも報告が行なわれている。また当学会の社団法人化および国際会議の開催にあたっての絶大な協力をはじめ、月例講演会の会場提供、幹事の派遣等、当学会の運営にも

大いに寄与している。以上の理由により今年度実施賞を同社に授与した。

3. 普及賞

第2回普及賞は森村英典氏に授与された。

同氏は1961年より71年にわたり刊行物委員・幹事として努力し、さらに、1975年「オペレーションズ・リサーチ」誌を本学会に移管、機関誌として発行するにあたり、その編集委員長として、学問の水準を落とすことなく内容の平易化に努め、ORの普及に貢献した。

委員会の構成 (文献賞)阿部俊一、伊理正夫、坂口実、鈴木武次、刀根 薫、真壁 肇、渡辺 浩 (実施賞・普及賞)後藤正夫、朝尾 正、横山勝義、原野秀永